

「東京臨海地域における安心安全健康のまちづくり」プロジェクト

| | |
|-----|--|
| 代表者 | 佐藤宏亮【教授】(建築学部 建築学科) |
| 構成員 | 村上公哉(建築学部 建築学科)／秋元孝之(建築学部 建築学科)／清水郁朗(建築学部 建築学科)／桑田仁(建築学部 建築学科) |

■プロジェクトの概要

江東区、墨田区、川崎市などを含む東京臨海地域は土地利用の転換が進み、インフラの整備や新産業の拠点形成などが進められている。海外からのビジネスマンや観光客の増加も見込まれ、多様性に富む地域となりつつある。しかし、新しい都市づくりが進められる一方で、高密度居住に起因する災害時のLCP(Life continuity planning)の確保、子供の安全な遊び場環境の創出、高齢者が安心して外出できる環境の充実、多様な主体によるコミュニティ形成など、新都市ならではの課題が山積している。本プロジェクトは、地域の防災力や災害対応能力の育成、安心して暮らすことのできる生活環境のマネジメントの方法などを検討し、地域と大学とが協力しながら安心安全健康のまちづくりを推進していくことを目的としている。

■FDSD(地域志向)活動の成果

【教育】

本プロジェクトには都市計画や建築計画を専攻している学部学生、大学院学生が参加している。東京臨海地域は災害対応や安心して住み続けることのできる環境づくりなど、最先端の都市計画や建築計画が進められている地域であり、生きた学びの環境を提供してくれる。

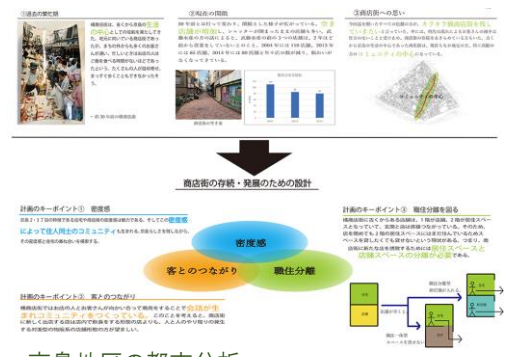
本年度は、墨田区の木造密集市街地を対象とした防災まちづくりの提案、江東区臨海部の新産業拠点形成にともなう土地利用更新の提案など、現代都市が抱える重要な課題をテーマに研究、教育に取り組んだ。著しく変化する都市の変化や戦略的な都市計画など最先端のまちづくりに触れながら、都市防災や多文化共生への取り組みなど多様な側面から都市を眺める視座を養うことができた。

【研究】

健康のまちづくりを進めていくために、豊洲地区を対象として、ランニングやウォーキングなどの健康につながるアクティビティ調査を実施した。運動を行っている人へのヒアリング調査によりデータを収集し、豊洲地区で行われている運動に関わる行動を把握した。そして、より快適に運動を行えるような都市空間の整備や改善方法について提案につなげた。また、快適な都市空間という視点から、豊洲地区において人々が滞在する空間の環境分析を実施した。五感をテーマとして、人々の五感を刺激する都市空間が備える要素を抽出し、アクティビティとの関係について分析を行った。

【社会貢献】

豊洲地区における防災対策の課題を共有するために、豊洲2・3丁目まちづくり協議会と連携して、防災をテーマとした小冊子『まちつかいTOYOSU』を発行した。冊子は豊洲2・3丁目まちづくり協議会のホームページ上で広く公開しているほか、地域のイベント等の際に無料で配布していく予定である。また、この冊子を活用して、大学の生涯学習講座を開講し、地域の方々への情報発信を行った。100名を超える聴講があり、豊洲地区の防災まちづくりに向けた社会貢献につながった。また、豊洲の防災上の課題に対応したエリアマネジメントの具体化を目標に、オフィスビルの管理者の相互の連絡体制の構築と、災害時の連携体制について継続して検討を行なっている。



京島地区の都市分析



江東区職員よりレクチャアを受ける



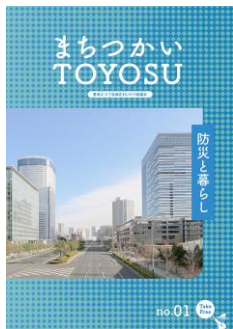
豊洲地区の環境分析

主なトピックス

■ 防災をテーマにした小冊子の発行

豊洲地区は比較的災害に対しては強いと考えられているが、タワーマンションが並ぶことによる避難生活上の課題や、帰宅困難者の発生など拠点的市街地ならではの課題も存在する。周囲には災害に対して脆弱な江東デルタ地帯が広がっており、災害時の避難者の受け入れなども検討しておく必要がある。

このような豊洲地区の防災に関する情報について、研究成果をもとにした冊子『まちづかいTOYOSU』を発行した。広く地域の方々やオフィスワーカーに情報を発信していくとともに豊洲地区の防災上の課題を共有し、エリア防災の取り組みにつなげていく予定である。



防災まちづくり冊子の編集と発行



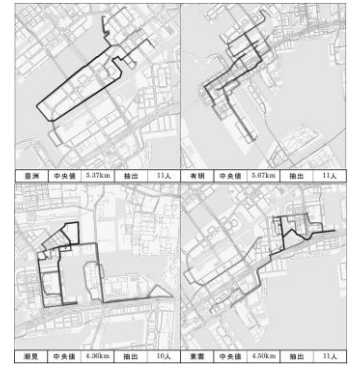
■ 健康促進に関わるアクティビティ調査

豊洲地区を含む東京臨海地域はオリンピック関連施設をはじめ、体育館やスタジアムなどの施設が充実し、健康のまちづくりを進めていくことが期待されている。本研究では、このような充実した施設を活用するのみならず、日常的な運動を支える都市空間をテーマとして、人々の運動などのアクティビティ調査を実施した。

ウォーキングやランニングなどのアクティビティをヒアリング調査をもとに把握し、豊洲地区の運動に資する空間や、連続性が失われているなど課題のある場所を把握し、提案につなげた。

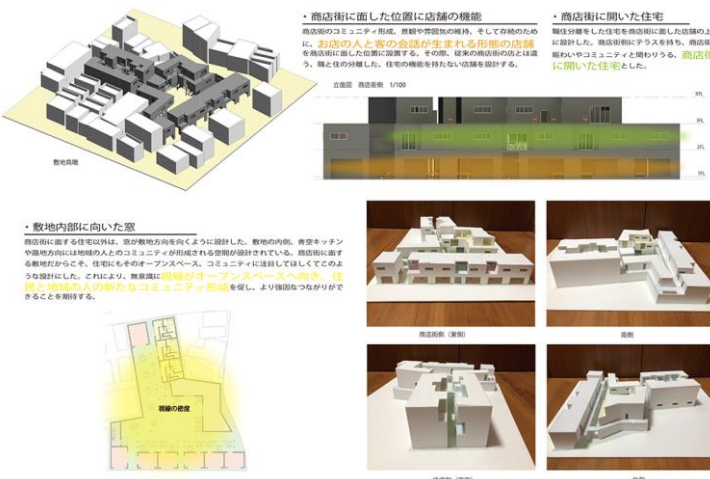


豊洲地区でのアクティビティ調査



■ 木造密集市街地の集合住宅の提案

学部3年生の授業として、江東デルタ地区に位置する墨田区の木造密集市街地を対象に、災害に強いまちづくりや建築計画の提案を行った。木造密集市街地は地震時には家屋の倒壊や火災の発生により被害が拡大する可能性があり、地震に強い建物への更新が求められる一方で、昔ながらの街並みやコミュニティが残るため、開発と保全のバランスのとれたまちづくりが必要になっている。この授業では、フィールドワークを通して密集市街地の都市分析を行うとともに、防災まちづくりの体制づくりや空間づくりについても検討を行いながら、災害に強い集合住宅の設計提案を行なった。

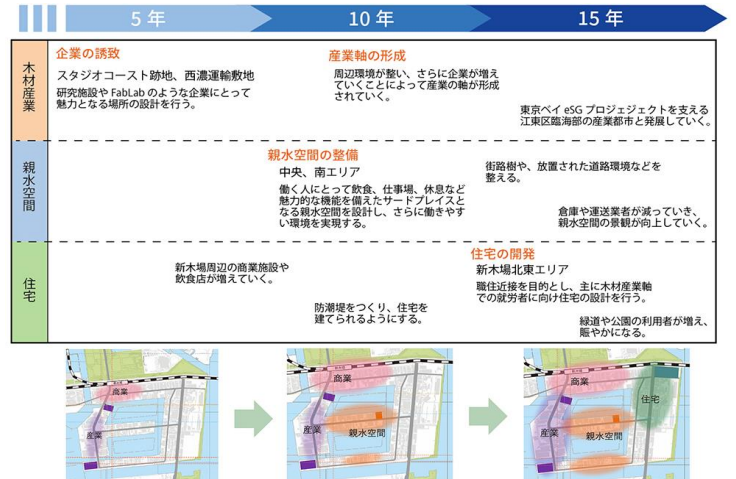


木造密集市街地に建つ集合住宅の提案

■ 土地利用転換にともなう都市更新提案

江東区臨海部は、海の森や新木場などの広大なエリアが広がり、物流施設や木材産業などの拠点となっている。しかし、産業構造の転換による土地利用の変化への対応や、オリンピック競技施設の活用など、将来に向けたまちづくりの検討が進められている。

本研究では、新しい土地利用として新産業拠点の形成に着目し、海外における先端産業拠点としての都市デザイン事例の分析、産業転換に伴う都市更新の方法の検討などを行った。また、外国人居住者の増加、新しいライフスタイルの形成などを念頭におき、多様な人々が共生する都市デザインの提案をとりまとめた。



東京臨海部の土地更新の分析